

ここでは役場で行っている環境マネジメントシステムの内容や取り組みについて紹介します。

今回は、11月10日、11日に行われた、平成21年度外部監査について報告します。



10日、午前9時より町民監査員4名、環境自治体会議から専門家2名、実行責任者（管理職）、環境マネージャー、事務局により外部監査を行いました。

監査結果については以下のとおりです。

平成21年 11月 11日

土幌町長 小林 康雄 殿

土幌町環境マネジメントシステム
監査チーム

主任監査員 東村 達夫

副主任監査員 辻 亨

副主任監査員 多比良 康彦

環境監査報告書

L A S - E実施項目の監査結果について、以下のとおり報告いたします。

1. 監査日程

平成21年11月10日(火)、11日(水)

2. 監査対象

本庁舎：10実行部門、外部施設：18実行部門、計28実行部門
および環境政策推進本部、事務局

3. LAS-E監査内容

【共通実施項目監査】

- | | |
|--|--------|
| ① エコアクション(環境活動)部門 | 第1ステージ |
| A101, A102, A103, A104, A105, A106, A107, A108, A109 | |
| ② エコマネジメント(環境経営)部門 | 第1ステージ |

4. 総合所見

エコアクション部門9項目およびエコガバナンス部門6項目では全て○(良好)でしたが、エコマネジメント部門において9項目中1項目のみ△(改善要望事項)と評価しました。

全体としては、身近なエコオフィスの取組や基本的な情報発信等は実践されているものの、記録や提出、方針等の理解といった、運用のしくみ・体制の面での課題が顕著になりました。

エコアクション部門においては、省エネやごみ減量、業者への環境配慮要請等の具体的な取組はほぼ定着しており、良好な実施状況が確認できました。しかし、使い捨て容器の処理、グリーン購入については、取り組むべき状況が曖昧になる場合もあり、取組を有効にするためのルールの明確化が必要です。

エコマネジメント部門では、B107を△としました。特に教育施設でのごみ等の計量等において、記録はとられているものの提出されていない等、取組方法の理解不足が多く見受けられました。また、共通実施項目別評価結果において、△にならなかったものの、職場研修の実施あるいはその記録がない、基本方針、環境影響、独自目標についての理解が不足している施設も多く見られました。こうした施設では、記録や報告時期等の取組方法が十分に伝達されていない、基本方針等の理解については担当者一人に任せきりで他の職員への広がりがなく、担当者の異動・不在時の引き継ぎも十分ではないという状況が推察されます。これらの施設を主に所管する教育課とも協議の上、取組方法を中心とした情報の伝達、取組内容の施設内周知や引き継ぎ方法について、整備または改善を望みます。

エコガバナンス部門では、全項目で実施を確認できましたが、町民にも実施できるような良い取組事例や環境宣言のPR等、町で行っている環境関連の事業内容について、より積極的な発信があると良いでしょう。

マンネリ化防止やより有効なシステム運用のためにも、今回の指摘に加え、これまでの監査での指摘事項の対応を再確認し、システムの運用方法(運用の手引き)そのものの評価・見直しをご検討下さい。

また、推進本部長および副本部長へのインタビューの中で、地域(町民)への取組の拡大を強く意識されていることを確認できました。今回の監査では指摘の多かった教育施設ですが、そこからの情報発信や取組の展開は非常に重要です。地域展開を見据えた取組についてもご検討いただき、士幌町全体での環境への取組の推進を期待します。

